平成 27 年 8 月 12 日

平成 27 年度　ナショナル審判ミーティング
レフェリー部門 グループミーティング

日時　：平成 27 年 7 月 26 日
場所　：国立代々木競技場会議室①
進行　：武内 哲朗
議事録：依藤 弘樹
出席者：新田俊彦・遊磨正秀・菊池由喜男・黒田幹也・清水久男・堀裕次
武内哲朗・畑則好・岩下清人・山崎良二・高木賀津彦・宮下一英
八神司・浅野崇人・堀江倫顕・岩島直巳・依藤弘樹・石見嘉友
立山秀樹　（順不同・敬称略）

※昨年度・大会時における問題点の検証※

①リレー競技における問題点について

・スタート時に後方より加速した状態で２走がタッチした事象について
スタート時は、選手全員が静止することで統一する。
・転倒時のタッチは、走者がどこでタッチをするかにより結果が変化する。
・走者がオフトラック状態でタッチすればペナルティとなり失格となる。
但し、走者が自らオフトラックから復帰すればタッチは成立する。
・オフトラック後に次走者にタッチしたが、オフトラックを解消するため
前走者にタッチをするが、再タッチは成立しないので失格となる。
＊追記・訂正）遊磨氏にＩＳＵコミティ・レニエ氏へ確認して頂いたところ、
オフトラックした選手からリレーを引き継ぎ，オフトラックを回復して良い。
との回答でした。
・走者が直線で転倒しトラック内に入ったが、オフトラックが認められな
ければ、タッチは成立する。
・タッチ時、脚を大きく広げた状態で他チームを妨害したと見なされた場合
ペナルティとなる。
・リレーにおける逆走は、他者を妨害しない限り，逆走可である。
・上記の問題点は、ルールとしては記されていない事もあるので、事前に
監督会議等で監督・選手に通達する必要がある。

②負傷選手の出場について

・試合前に、コミティー・レフェリー・ドクター等に相談が必要。

・怪我の度合いによるが、レースによる怪我の悪化の懸念や同走選手への配慮の為に、監督・コーチには出場を控えるように説明が必要である。

③周回遅れについて

・周回遅れを追い越す場合、先頭集団の順位が変動した場合にアドバンスは適応されない。但し周回遅れの選手がコースを変化させて妨害した場合はペナルティとなる。選手が２周遅れになりレフェリーが危険と判断すればその選手をレースより除外出来る。

・基本的には、抜く側の選手が注意する事。

・周回遅れの選手がレースに復帰したが、先頭集団に混じりレースを行い後方選手に不利になるような滑りをした場合、ペナルティを科す。

・集団内で後方に付いていくだけならセーフであるが、レース結果に影響を及ぼす可能性がある為、集団から離れるように促す方が良いのではないか。

④スタート時の転倒について

・スタート時の接触・転倒については、基本的にスターターの権限において判断する。なお妨害・反則等があれば、レース後にレフェリーが判断する。

⑤ビデオレフェリー（ＶＲ）の設置について

・リンクによって条件（担当・設置場所・台数等）が違うが、レフェリーの人数をどのように運用すべきか。ベストは、レフェリー５名＋ＶＲだが費用・迅速性に問題が生じてくる。

・ＶＲを使用する事により、ビデオに頼り過ぎやレフェリーのスキル低下を招く事態になってはいないか。

・遊磨氏より、ＶＲとのジェスチャーによるやり取りが大きいと外部に知られてしまう可能性があるので注意が必要との意見あり。
またＶＲがレフェリーのジャッジや権限を侵してはならない。

⑥レフェリー団の運用について

・選手の参加人数が 150 名を超えるような大会では、レフェリーを 2 名にするなど、個人の負担を減らすようにしていく必要がある。
例えば、５名のレフェリーをフレキシブルに配置するなどの案も有り。
(該当試合／N&Jr.(1・2 戦)・都道府県対抗・全日本 Jr.・Japan Trophy)

・レフェリーの回数が増える事は、若手レフェリーに経験を積ませる良い機会となる。

※その他の検証※

①東西選手権で、実力下位の選手をレースからあげるのか。

・基本的には、完走させる。（特に 1500m・予備予選等）

・あまりにひどい場合には、あげても良い。

②コーチ陣の対応について

・Ａレフェリーがコーチ陣へのペナルティ通告を行わない。

・コーチ陣によるジャッジへの進言は、対応しないものとする。

・レフェリー・Ａレフェリー共に、休憩時間等においてもジャッジに対する質問等への返答を控える。（個人の見解も含む）

③国体の役員派遣について

・現在の国体推進部の依頼で役員を決定するのは、順序が違うのではないか。
日本スケート連盟として役員を選考し派遣を決めるべきと考える。

・本年度より事前に取りまとめをし、ドラフト制を利用、役員を決定していく予定である。（新田氏より）

④Ｎ＆Ｊｒ．第２戦について

・新田氏より、２年に１度は滑るリンクにて開催したいとの事。
タイムが向上するなど次年度の選手のモチベーションに繋がっていく。
（特にノービス選手やその保護者に有効ではないか。）

以上が、今年度のナショナル審判ミーティングで議論された内容です。
この議論を活用し今年度の競技会に生かしていく事が大切だと感じました。
また初めての参加となった私個人としても、とても勉強になる２日間でした。
今まで以上に気を引き締めて、競技会に臨みたいと思います。